

●地場産業の振興について

団員 原 俊司

サクラメント市への視察は、私自身5年前の平成31年1月27日から9日間の日程にて7名の視察団で訪問以来である。本市との交流もコロナで中断していたが、昨年11月には、松山サクラメント姉妹都市協会グロリア・エスペホ会長、水島富幸子副会長夫妻をはじめ多くの訪問団の方々をお出迎えた歓迎レセプションにおいて5年前のお礼と年明けの再会の約束を果たし後の訪問であった。

私の担当「地場産業の振興について」報告致します。

本市では、ふるさと納税返礼品に酒類を提供する事業者は8社、返礼品は38件あり、酒類寄付額は11月までの8カ月で約1,200万円である。約1年で2倍の売り上げとなっており、地場産業でもまだまだ伸びしろがあると思われる。



(ニュー ヘルベティア ブルーイング)

今回の視察では、酒類の中でクラフトビール醸造所に注目した。愛媛県のクラフトビール製造所は、12件あり本市には4つの醸造所がある。愛媛は柑橘類の生産が有名で、その柑橘類を活用し爽やかな香りと味わいが特徴である。

事前の勉強会では、コロナ禍の中で興居島にて本市が全国から移住定住者を

迎える定住促進施設「ハイムインゼルごごしま」で移住定住し、併せて新規でクラフトビール醸造所の開業を果たした「GOGOSHIMA BEER FARM」経営者 南雲さんの体験談で、コロナ禍での開業の大変さや個人経営だからこそできる事やご苦労を伺った。

サクラメント市議会を訪問後での「地場産業の振興について」の視察先としてサクラメントの郊外にあるクラフトビール醸造所とビアホールを併設しているおしゃれな「ニュー ヘルベティア ブルーイング」という事業所を訪問した。醸造所の紹介であるが、事業所の名前の由来はメキシコの一部だった

たこの地域をサッター・シニアが自分の植民地を「ニュー・ヘルベティア」と呼んだ。アメリカゴールドラッシュを機に、1920年サクラメントができた。ルーツである入植地時代の「ニュー ヘルベティア」という名前を誇りにして事業所の名前としたとのことであった。可能な限り地元産の原料を使用して、地元生産者と共に発展を目指している。オーナーからはコミュニティが集まり、友人と会い、あらゆる行事を祝い、交流できる場所を目指しているとの説明があった。

当日は、本市にも何度も訪問頂いている元アメリカンフットボール選手サク

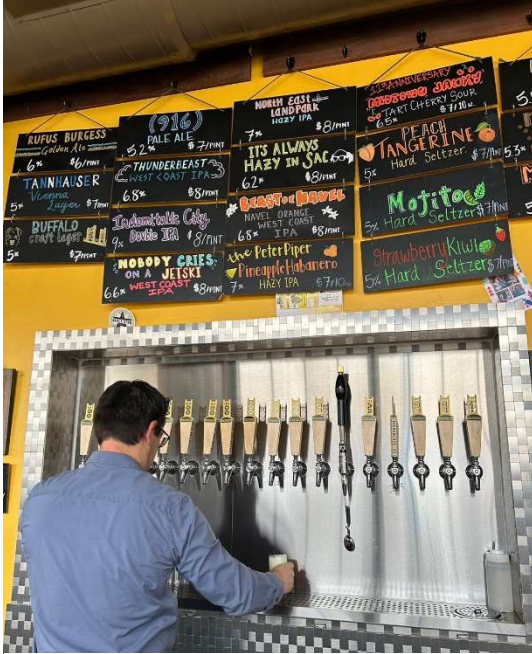


(工場と併設するビアホールでのレクチャー)



(工場でのレクチャー)

ラメント市議会議員リック・ジェニングズ氏も駆けつけ頂き、約20種類のクラフトビールの試飲と共に親交を深めることができた。



(数種類の柑橘系のビールが楽しめる)

サクラメントでは、地ビールの普及促進のため、サクラメント都市圏をカリフォルニアの最高のクラフトビール市場及び世界クラスのビールの目的地にするために、地元の醸造所をサポートする「サクラメント エリアブル ワーズギルド」という団体がある。団体の目的は、ビールに関する教育・専門能力開発、同業者メンバー同士の交流情報交換で互いに成功を目指し、毎年春にサクラメントビールウィークとし啓発している。

本市では、日本酒では蔵元が集まりイベントが行われているが、ビールのイベントは行われていないことから、今後は本市でも柑橘類を活用し爽やかな香りと味わいが特徴であるクラフトビールはポテンシャルが高いと思われることから、地元醸造所とのコミュニケーションを深め、業界全体の底上げの必要性を感じた。